



諦めない心と、スピード感。これが仕事における2つのモットーだ。幅広い業務の中で日々挑戦を続けているが、これらのモットーを抱くに至ったきっかけに迫る。

諦めない強さを得た夏の夜

入社して2年目に最初の転機が訪れた。新規受注が決まったものの、製造本格稼働する前の試作段階で思わぬトラブルが発生して、手作業で試作をしなければならなくなったのだ。数量もそれなりにあったが、納期を伸ばしてもらおう交渉をするつもりはなかった。「どうにかして間に合わせたい」と思い、作業にあたった。大型のばねの製造には大変な力が必要で、真夏の夜、汗をかきながら黙々と手を動かした。

「とにかくやるしかないと思っていましたし、これを乗り越えれば、自分も成長できると考えました。すべて終えられたときには、自信ができましたよ」。

この経験を経て、1つ目のモットーである「諦めない心」を養った。課題があれば、それを乗り越える手立てを考える。もちろん、どうあがいても突破できないケースもあるが、結果が出るまでは絶対に途中で逃げることはしない。

スピードを意識する理由

2つ目のモットー、「スピード感」の重要性は、マネジメントを行う上で実感していったことである。部下とのコミュニケーションもその一つで、悩みを抱えていると感じたら、すぐに解決に動くよう心がけている。それはトラブルを大きくしないためであり、同時に部下本人の気持ちを少しでも早く楽にしたいからだ。

また、部下にも少しでもスピードを意識してもらえよう、指導の際には細かく期限を設けている。それも、余裕を持たせるというよりは、少し頑張る必要がある程度の短さに設定。ゴールに向けて一生懸命



▲業務中の様子

命になれる環境が整っているおかげで、ときに苦勞しながらも集中して働くことができ、その経験が一人ひとりの成長につながっていくのだ。

コスト減と品質向上を両立させる取り組み

特に改善活動においては、スピードが業績に直結する。ひと月でも早く利益を出せる体制を作れば、その分会社の成長も早まる。直近では、ラインに従事する人数を2人から1人に変更した。当該ラインは年に数回不良を出していたが、そもそも2人体制だったことで確認の抜け漏れが生じ、工程を飛ばしてしまうのが原因だった。そこで「1個流し」というトヨタ生産方式を取り入れ、1人が作業を受け持つようにしたのである。現場とのコミュニケーションを丁寧に、ひと月ほどかけてラインのレイアウトを変更。現在では、目標としていたサイクルタイムも達成できたという。

公私それぞれの目標

現場改善における最終的な目標は、作業に従事する人が仕事しやすい環境を整えることだ。その中で「ありがとう」と感謝の言葉をもらえると、一層やりがいを感じる。

「頑張っている従業員には、会社でもプライベートでも豊かになってもらいたい。そのための改善なら、少しでも早く取りかかりたいと思っていますし、一日でも早く利益を出して会社が発展すれば、従業員の待遇をより良くすることにもつながります。だからこそ、「諦めない心」と「スピード感」を重視してきました」。

こうした改善は、一朝一夕ではかなわない。試行



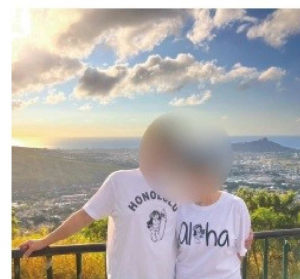
▲社員との1枚

錯誤が必要になる状況もあるものの、名興発條株式会社には挑戦させてもらえる場があるという。そこで成果を出せば、喜びとやりがいを得ることができ、そのような好循環が名興発條の良さに他ならない。

今後は、次期リーダーの育成が急務である。製造メンバーからの生え抜きで、課長を2人立てたいと考えている。課長、係長、班長と、各役職がきちんと設置され、組織としての基盤を盤石にしていきたい。

また、プライベートでは、24歳で結婚して子育てに奮闘してきたもあり、実は新婚旅行に行けていなかった。そこで昨年の年末に妻と2人でハワイに「30年越しの新婚旅行」に出かけたが、4泊6日の日程では堪能するには短かったという。そのため、もう一度ハワイに行くのが目標である。

「前向きに頑張っているみんなが、仕事でも家庭でも幸せになってほしい」というその究極ともいえる目標を達成するため、これからも果敢に挑戦を重ねていく。



▲ハワイ旅行のお写真

社長と専務に聞いた 企業理念に関するあれこれ

朝礼で唱えている企業理念と社是について、正しく理解できていますか？企業理念や社是に即した行動は、会社のためだけでなく、皆さんの幸せや成長にもつながります。この機会に企業理念や社是への理解を深め、自身の行動を振り返ってみましょう！

企業理念

私達は、製品をタイムリーに顧客に供給し、日々品質の向上と環境負荷低減を努め、常に業界ナンバーワン企業を目指します。

新たに理念に込めた思い

2025年も企業理念と社是に即した行動を

社会貢献や環境保護に取り組みたいという思いから、「環境負荷低減を努め」という言葉を2014年に追加しました。業界No.1企業を目指すためには、これらの実践が欠かせません。



2025年も引き続き、5つの社是の実践に力を入れます。

代表取締役社長
槽谷 信嘉さん

専務取締役
槽谷 豪宏さん

社是に即した取り組みについてお聞きしました！

1 明るく楽しい職場にしよう

社長：達成感を感じながら仕事に取り組んでほしいと思います。楽しめなければ仕事もレベルアップできません。

2 創意と工夫に努めよう

社長：楽しく働くためには「創意と工夫」が必要。常に問題意識を持って取り組んでほしいという思いから、現在「月間1人1件の改善提案を出す」ことを目標にしています。専務：0件の人はいれば、10件出す人もいます。皆さんが楽しく働くことにつながりますので、今後はもっと全員に、さらなる意欲を持って努めてほしいと思います。

3 会社の繁栄と従業員の幸福をつかもう

社長：従業員の幸せには、給与や労働環境の整備が欠かせません。しかし、それを実現するためには、会社の繁栄が必要不可欠です。会社の繁栄のために、①②③④⑤の項目を意識して取り組んでみてほしいと思います！

4 失敗を恐れず前進に努めよう

社長：果敢に挑戦したことなら、失敗しても怒りません。むしろ行動しないことの方が問題です。専務：創意工夫に関する提案やそれに伴う行動はすべて正解です！

5 社会に貢献して行こう

社長：「環境負荷低減に努める」ことが、社会貢献につながります。

社是を体現するために心がけておくべきポイント

すべての根底にはチームワークや協調性が必要です。自分が関わっている範囲以外のことも率先して行動できる人がもっと増えると良いなと願っています！誰が行うのが役割が振られていないグレーゾーンの仕事にも目を向けることで、自然と社是に書かれている姿に向かっていくことができると思います。

社員の皆さんへのメッセージ

専務：社員の皆さんには誇りを持って働いてほしいと思います。高度な技術や設備の整った環境で働くこと、自動車業界を支えているという誇りを持つことで、チャレンジへの意欲にも繋がっていくのだと思います。